

基本理念は「安全」「快適」「やすらぎ」。

地域の皆さまと共に考え、共に協働し地域の福祉を支えてまいります！

能登半島地震被災地に災害派遣福祉チーム(山形 DWAT)のチーム員として支援に行ってきました…

Q:令和6年3月にチーム員として参加した支援についての感想をお聞かせ下さい。

A:初めは不安な気持ちがありました。他県しかも東北地方でもない地域に支援に行くこと、また遠方の知らない土地でまた地震が起きたらということも不安の一つでした。しかし、職場の同僚や上司の方々に背中を押して頂き、自分自身の成長のために参加しようと思いました。この活動を通じて貴重な体験ができ勉強になりました。

Q:どんな体験だったのでしょうか？

A:私が支援として担当したのは、1.5次避難所での聞き取りです。1.5次避難所とは、被災後はじめて非難した場所(1次避難所)から、次の移転先(2次避難所:仮設住宅や再建した自宅など)に移るまでの中間の避難所です。その方の今後の生活を考えながら、次の生活の場につなげる為に、現在や今後の状況を細やかに聞き取らなくてはなりません。1.5次避難所で困っていることなどもお聞きします。それを実際に支援するケアマネジャーなどの方に正しく情報を伝えることが役割でした。

自分が聞き取った内容と伝えた内容で、その方の今後の生活に大きく影響することを考えると、責任の重さを感じました。被災されている方々と、どのようにコミュニケーションをとり信頼関係を築いてゆけば良いのか悩むこともたくさんありました。

Q:どのような苦労がありましたか？

A:例えば医療機関を受診したい被災者の方から、受診に行くためのタクシーの予約を頼まれたことがありました。被災地でなく普段どおり自分が生活している場所であれば難しいことではないのですが、被災してまた2か月くらいでしたので、その医療機関が受診可能なのか、タクシーは運行しているのか、どこのタクシーに依頼したらよいかなど様々なことを考える必要がありました。実際タクシーを手配してくださる担当の方に引き継ぎしたあと、本当に問題なく受診できたのか最後まで気が抜けませんでした。

Q:印象に残っている出来事などは？

A:「ありがとうね」や「安心したよ」などの言葉を避難所の方々から言われたときは、『支援活動に参加して良かった』と心から思いました。



Q:これから被災地の支援活動に参加したいと思っている方に・・・。

A:参加したいと思っても不安に感じることもあるかもしれませんが、自分が支援に参加してみて、チーム員としても一人ではなく一緒に活動する仲間がいましたし、現地でも多くの人と一緒にチームとして行動できました。大変なことがあっても、チームの皆さんと一緒に乗り越えられる。多くの方に支援に参加してほしいと思います。